

## おおた障がい施策推進プラン（素案）の区民説明会（第1回）質疑応答の要旨

No.	意見・質問等の要旨	区の回答要旨
1	<p>障害者虐待防止法では、病院や学校等が通報義務の範囲に入っていないため、区で法に上積みする形で虐待防止等のあり方について検討し、推進していく可能性はあるのか。</p>	<p>権利擁護については、大変重要な課題だと認識している。国会等でも動きがあるので、引き続き国の動向を注視していきたい。</p> <p>虐待防止法の取組については、関係者会議等の中で十分に検討していく。</p>
2	<p>前回の計画策定の時と比較すると、自立支援協議会との関わりはかなり変化があったと認識している。</p> <p>今回の計画策定において、自立支援協議会が果たしている役割をどのように考えているか。</p>	<p>前回の計画策定の際には、二つの会議体で検討を進めた。</p> <p>一つは、障がい者団体、学校機関等で構成する「大田区障害者福祉連絡協議会」、もう一つは、学識経験者、自立支援協議会の委員等で構成する「大田区障害者計画・第4期大田区障害福祉計画検討委員会」である。</p> <p>前回の計画策定時に、より多くの方々が広く参画し、検討する必要があるという意見があったため、今回の計画については、新たに設置した「大田区障がい者施策推進会議」の場で検討している。</p> <p>自立支援協議会の委員で施策推進会議に参画している方もおり、具体的な課題の中で提案されたものについては、各委員に情報提供して検討をしている。</p>
3	<p>重症心身障がい児、肢体不自由児も行き場がない現状がある。</p> <p>障がい者総合サポートセンターの発達障がい児を対象とした放課後等デイサービスなどでそういった子たちの受け入れもしてもらえるのか。</p>	<p>障がい者総合サポートセンターで放課後等デイサービスの実施を考えているが、基本的には療育の一つとして考えており、対象は発達障がい児となる。</p> <p>医療的ケアのある方を含む重度の障がい者に対する短期入所施設も考えており、医療的ケアもある重症心身障がい児等についてはこちらで対応していく。</p>
4	<p>訪問系のサービス見込量の確保に向けて、具体的な対応を考えているのか。</p>	<p>障がい分野に限らず、福祉人材そのものの確保が非常に厳しい状況である。</p> <p>その中で、国では介護報酬についての検討が進められている。</p> <p>障害福祉サービスについては国の制度設計の部分が大きいため、国の動向を注視していきたい。</p> <p>また、早い時期に福祉の現場を体験していた方は、福祉分野の仕事に就くことが比較的</p>

No.	意見・質問等の要旨	区の回答要旨
		<p>多いと東京都社会福祉協議会の提言でまとめられている。</p> <p>区としてもどのような支援の取組ができるか、研究を深めていきたい。</p>
5	<p>精神科病院からの地域移行についての数値目標が見当たらない。区で独自に数値目標を掲げる予定があるのか。</p>	<p>東京都が数値目標を設定しているため、区では都の目標を踏まえながら、連携して地域移行を進めていきたい。</p>
6	<p>精神障がいの方は、都道府県の単位を越えた入院がとて多くなっている。</p> <p>都道府県単位を越えた数値目標について、どのように把握をされているのか。</p>	<p>数値目標は各都道府県で設定している。区では、東京都が設定した数値目標も踏まえて障害福祉サービス等の必要な量を見込み、その確保に努めていく。</p>
7	<p>障がい者総合サポートセンターで行う放課後等デイサービス事業の開設時期、事業者はどこを想定しているのか。</p>	<p>放課後等デイサービスの開設時期については、平成31年3月を予定している。</p> <p>事業者は、公募の結果、社会福祉法人「全国重症心身障害児（者）を守る会」となった。</p>
8	<p>大田区障がい者施策推進会議には、精神障がいや知的障がい、難病の当事者の方々の参画がないのではないのか。</p>	<p>大田区障がい者施策推進会議の委員には当事者の方もいる。</p> <p>当事者参画をどこまで進めていくかについては、今後検討していく。</p>
9	<p>余暇活動について、大田区の青年学級は社会教育課で行っていたが、現在どのようになっているのか。</p>	<p>身体障がいの方に対する「コスモス青年学級」、知的障がいの方に対する「若草青年学級」は、平成27年度に社会教育課から障がい者総合サポートセンターの事業として移ってきている。その他、地域交流支援部門で年間60程度の講座も実施している。</p> <p>運営する側の高齢化や年齢制限などの課題も踏まえ、取組を進めていきたい。</p>
10	<p>障がい者総合サポートセンターのルートバスについて、余暇活動の実施時にはバスの本数を増やすなど、参加しやすい方法があればいい。</p>	<p>障がい者総合サポートセンターのバスは2台を確保している。生活訓練と機能訓練の利用者のための送迎バスとして利用し、合間の時間でルートバスとして走らせている。</p> <p>利用者の移動手段の確保は重要な問題であるため、検討していく。</p>
11	<p>相談支援専門員の掘り起こしや、事業開始への支援など、サービス見込量を確保するための具体的な考えがあるのか。</p>	<p>障がい者総合サポートセンターで、相談支援専門員の初任者研修や現任研修を実施している。</p> <p>研修を受けた方に実際に働いてもらうことが重要であるため、場面に応じた形で考えていきたい。</p>

No.	意見・質問等の要旨	区の回答要旨
12	<p>障がい児にはセルフプランの方が多く、相談員が付いていないのは問題ではないか。</p>	<p>12月現在で、障がい児の相談支援事業所は12か所ある。各事業所には、児童発達支援地域ネットワーク会議に来ていただき、連携をしている。</p> <p>相談支援で大事なことは将来を見通すことであり、進学や就職があったり、家族の状況も変わったりする中で、それらを計画の中に取り入れてほしい。</p>
13	<p>移動支援について、精神障がい者や発達障がい者はランダムに使う方が多く、ヘルパーの確保が困難である。</p> <p>どのようにサービスが運用され、実際に使えているのか、また逆に使えていないのか、現状の課題について教えてほしい。</p>	<p>サービスの運用については、どうしたら円滑にできるのか、研究していきたい。</p> <p>移動支援のサービス不足への対策として、昨年度から障がい者総合サポートセンターでガイドヘルパーの養成講座を実施している。最終日には事業者を呼んでブースを設けるといった体制で研修を実施している。</p> <p>移動支援を使いたい時間帯が集中しているため、事業者間で連携が取れないのかという意見も聞くので、検討していきたい。</p>
14	<p>精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムについて、当事者同士の支え合いや既存の福祉・医療を越えた連携を進めていただきたい。</p>	<p>目標とした平成32年度までの地域包括ケアシステムの構築は、国から新規の施策目標として提示されている。</p> <p>今後庁内でも十分検討し、その検討の中で意見をいただきたい。</p> <p>障がい者総合サポートセンターでは、ピアカウンセリング等にも取り組んでいるので、活用できる部分は活用していきたい。</p>
15	<p>障がい者総合サポートセンター内で実施されているピアカウンセリングは、情報提供を含めた相談的機能だが、同じ経験や分かち合いを通じた側面がまだまだ少ないと感じる。</p>	<p>ピアカウンセリングを行っているのは団体や親の会が中心であり、いただいた意見については、当事者からの意見として伝えていく。</p>
16	<p>介護と障がいの連動についての記載が見当たらないが、介護・障がいの連動についてどのように考えているのか。</p>	<p>すでに障がいの分野でも、介護保険が適用される方については、介護保険を優先的に利用していただき、介護保険が適用されない部分については障害福祉サービスを利用するなどの対応をしている。</p> <p>切れ目のない支援には、制度の縦割りを超えていくことが大事であり、障害福祉サービス事業者と介護事業者との連携は大切な視点である。</p> <p>また、介護事業所と障害福祉サービス事業</p>

No.	意見・質問等の要旨	区の回答要旨
		<p>所が連携できる研修や、介護事業所の方に対し、障がい福祉施設での体験研修も行っているため、このような研修を継続していきたい。</p>
17	<p>障がい者差別の解消について、実態の把握、解消をどのように進めているのか。</p>	<p>昨年度は30件近くの相談を受けており、区で対応できる部分については対応している。</p> <p>区で対応できる範囲を超えている部分については、所管の官公庁の窓口へ繋ぐなどの対応を行っている。</p> <p>区職員のスキルアップが大変重要であり、障がい者団体の方や、当事者のお話を聞くという研修を実施している。</p> <p>相互理解を進めながら、取組を進めていきたい。</p>